

# Monthly Report

Vol.54 / 2010 Nov.

## 2010 スポーツシンポジウムを開催



11月17日(水)、仙台市、河北新報社、仙台大学主催でせんだいメディアテークにおいて、今年度もスポーツシンポジウムを開催し、約220名の来場がありました。今年のテーマは「これからの青少年スポーツ教育について」で、はじめの基調講演にはバレーボール女子全日本代表で元主将の吉原知子氏が、「私とバレーボール～夢をあきらめない～」と題し、女子バレーの主将として長年に亘りチームを牽引した経験談や競技生活でぶつかる様々な分岐点において「決してあきらめなかったこと」などが話されました。つづいて本学

の阿部篤志講師（スポーツ情報メディア研究所・研究員）から、シンガポールで開催された、14歳から18歳までを参加対象年齢とする初のユースオリンピック（YOG）視察で得た情報をもとに、競技のみならず言葉の壁を越え他国を知るさまざまな文化交流がはかられた教育プログラムなどが紹介されました。



パネル討論では、宮城県高校体育連盟理事長金田幸夫氏、宮城県体育協会事業課長土生善弘氏（仙台大学大学院1期生）、仙台市市民局文化スポーツ部長武田均氏と阿部篤志講師による「これからの青少年スポーツ教育」について、宮城県や仙台市の今後やジュニア期のスポーツを醸成していくための方針や取組などの話が討論されました。世界の舞台に視線を向けた選手育成のあり方について話し合われた今回のシンポジウムは、世界では、若い世代へのスポーツを通じた教育に大きな期待が寄せられていること、身近なところでは宮城県でも、若い世代へのアプローチをどのような方向性で今後進めていくべきか注目していることなど、「未来のトップアスリート育成」や「スポーツによる地域の活性」などこれからの青少年スポーツへの新たな動きを感じる講演となりました。全国の「タレント発掘事業」に深く関わる仙台大学が持つノウハウなどの知的財産が、宮城県や仙台市のスポーツ振興にとっても財産となりうる可能性を秘めた討論となりました。



### 目次

2010スポーツシンポジウム	1
保護者のための就活セミナー 天然芝グラウンドお披露目	2
運栄SPが「みやぎ食育活動優良実践者表彰」優秀賞	3
2010大学祭 第5体育館立柱式	4
柴田町ダンベルサークル フォローアップ研修会	5
国際交流	6
OBの活躍	7
第15回新体操演技発表会	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。  
Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

## 「保護者のための就活セミナー」を開催



バブル崩壊後の大氷河期といわれた就職環境以上の厳しさとなっている現在の就職線において内定を勝ち取るためには、「保護者の正しい理解と協力が不可欠」となっています。

11月27日(土)に3学年の保護者を対象に「保護者のための就活セミナー」が本学としては初めて開催されました。セミナーには遠く三重県をはじめ3年生の保護者190名(121家族)に参加頂きました。ガイダンスは2部構成で進められ、第1部ではCDA(キャリア・イノベーション・アドバイザー)有資格者である佐々木事務局長(兼入試創職室室長)より、大学における就職支援の立場から「大学生の就職活動今昔と仙台大学生の就職の現状」について説明がなされました。近年の就職活動の環境変化や、仙台大学の就職対策と学生

の実態についての説明後、「就職後も納得して働くには、学生が自ら職種を選択し、必死になって厳しい就職活動に立ち向かう必要があります。そのためには、大学だけでなくご家族のご協力が必要不可欠です。大学では学生だけでなく保護者からの相談に対しても常時、相談に乗る体制を整えておりますので、大学と家族の共同戦線を張り、お子さんを支えていきましょう。」と話しました。

第2部では㈱ディスコ東北支社の菅野健郎氏より、専門家の立場から「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関わり方」題し様々なデータを元にお話を頂きました。「交通費などの就職活動費用は近年、企業側負担ではなく、本人負担が原則です。親に相談した学生ほど希望通りの就職先に入っているというデータがあります。これらは、家族の協力が学生の就職活動に大きく関わっていることを示します。是非、学生個人だけに任せるのではなく家族で立ち向かって下さい。」との話がありました。

保護者の方たちも、ガイダンス終了後も創職作業チーム教員に熱心に相談する姿が多数見られました。

本学では今後も保護者向けガイダンスを開催し、学生の就職活動に保護者と協力して全力で取組んでいきます。

## 県南地区初の塩釜方式天然芝グラウンド お披露目式



塩釜方式を採用し、整備を進めていたラグビー・サッカー場(第2グラウンド)の天然芝が青々と敷き詰められ、使用が可能となりました。11月26日(金)にはオープニングセレモニーを行い、朴澤学長、小幡忠義氏(塩釜FC理事長)、関係教職員、ラグビー部員とアメリカンフットボール部員が参列しました。

朴澤学長の挨拶では「学生たちには練習だけでなく、天然芝の管理方法についても学んで欲しい」と述べ、小幡氏は「激しいプレーなどにより、芝が傷むことは避けられないが、そこに土と芝の種を撒けばやがて自然と元通りになる。

学生たちには自分たちの使うグラウンドに愛情を込め、手入れする意識と、育てていくという意識を持って欲しい。」と話されました。セレモニー後にはラグビー部が早速、練習で汗を流し、芝の感触を確かめました。

## 運動栄養サポート研究会がみやぎ食育活動優良実践者表彰で「優秀賞」



11月9日（火）に「第4回食育推進県民大会」が白石市文化体育活動センター（ホワイトキューブ）で開催され、各自治体の関係者など約600人が参加しました。この大会は、食育を県民運動として展開することを目的に開催されているもので、みやぎ食育活動優良実践者表彰、記念講演、事例発表が行われました。

みやぎ食育活動優良実践者表彰では、本学の運動栄養サポート研究会が、宮城県下における優れた食育活動実践者として「優秀賞」が授与されました。

事例発表では、運動栄養学科の高橋杏奈さん（4年）と片岡のぞみさん（3年）が研究会を代表し「アスリートを栄養でサポート～学生から学生への食育～」を発表しました。それらは主に運動栄養サポート研究会が普段行っているサークルへのサポート内容の他、高校生への栄養指導、毎年参加している「宮城まるごとフェスティバル（主催：宮城県福祉協議会）」の活動報告などです。引率した丹野准教授によりますと、事例発表後には、栄養教諭をされている先生から「まるごとフェスティバル」で独自制作した教材への質問や、「サポート研究会の学生さんは、うちの学校にも来てくれるかしら」という声が聞かれるなど、多方面からたいへん好評を得たそうです。

## みやぎっ子ルルブル推進会議総会で栗木教授が講演

< 情報提供：菊地志織新助手 >



11月22日（月）に宮城県庁において「みやぎっ子ルルブル推進会議総会（主催：宮城県教育委員会）」が開催され、ルルブルパンフレット執筆者の栗木教授が「からだを動かすってこんなに面白い！」という演題で講演をされました。

宮城県教育委員会が推進している“ルルブル”とは、子どもの健やかな成長に必要な「しっかり寝ル・きちんと食ベル・よく遊ブで、健やかに伸びル」の“ルルブル”からとられた言葉で、県内の小学生全員に『ルルブルパ

ンフレット』を配布するなどの活動で、文部科学省の「早寝・早起き・朝ごはん」と共に宮城県内で推し進められている活動です。

『ルルブルパンフレット』には、成長期の子供たちに大切な生活習慣が身に付くよう、各家庭で取り組むためのヒントや解説が分かりやすく紹介されています。

今回の総会では、子どもの基本的な生活習慣確立に向けて、家庭・学校・地域・企業・民間団体など、社会総がかりで取り組んでいくことを目的として開催され、みやぎっ子ルルブル推進優良活動団体の表彰式と事例発表、『ルルブルパンフレット』の紹介が行われました。

栗木教授のご講演では、ご自身の体験をもとに体を動かすことの大切さをお話された他、アイスブレイクを取り入れるなど、参加者を魅了する楽しい講演内容となっていました。

## 2010仙台大学大学祭



10月30日、31日に柴田町と共同で「2010仙台大学大学祭・スポーツフェスティバルin柴田」が開催されました。台風の影響で、両日も悪天候だったにもかかわらず、家族連れなどで各会場が賑わいを見せました。毎年恒例のスポーツ講演会にはアテネ五輪体操金メダリストの富田洋之氏と、その感動を日本に伝えた刈屋富士雄アナウンサーにご登壇頂き、アテネオリンピックを振り返っていただきました。刈谷氏の「富田選手の緊張をほぐす方法は？」との質問に、富田氏は「演技前に会場を見渡し、自分が会場のどこにいるのかを確認することで緊張がほぐれます。これは、小学校の時のコーチに教わった方法です。金メダルの期待を一身にあびた最終演技（鉄棒）の際も、しっかり会場を見ることができたので自信を持って臨むことがで

きました。」と語りました。一方、メディアとして伝える側の刈谷氏は、有名になった「日本にまた日が昇りました」というフレーズは、日本体操が1998年に大敗した際にフランスの解説者が「日本の体操は二度と日が昇ることはないでしょう」と発言したのを聞いてから、日本体操復活の際には必ず言おうと心に決めていたとの裏話も披露されました。

この他、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校Health and Human Services学部のケネス・ミラー学部長による国際交流講演会、お笑いライブ、障がい者スポーツ交流会、ニュースポーツ交流会、グランドゴルフ大会など、「スポーツフォアオール」をモットーとする本学らしく、誰もが楽しめる内容が多く盛り込まれ盛会裏に終了しました。

## 第五体育館の立柱式



第5体育館の建設工事で、「杭打ち作業」、「掘削」、「捨コン」、「基礎配筋」、「型枠組立」などの基礎の土台をつくる作業が終了し

ました。鉄骨工事に入るにあたり、11月8日（月）に、建設中の第5体育館の立柱式が執り行われ、施工業者である鹿島建設(株)の関係者と丸谷課長が立会いました。立柱式とは、地上に構成される一本目の柱を建てる際に、お神酒と塩とで清め、建物の永遠堅固を願う儀式です。この柱を皮切りに、工事は着々と進捗し、第5体育館の全容がわかるほど骨組みが組みました。（下の写真は11月25日撮影）



## 柴田町ダンベルサークルフォローアップ研修会 本学で開催



11月15日（月）に第一体育館を会場に柴田町・地域包括支援センターが主催する「柴田町ダンベルサークルフォローアップ研修会」が開催され、約200名が参加しました。このサークルは、最近、全国的に注目を集めている、玄米ダンベル体操のサークルで、柴田町でも気軽に取組める介護予防として普及啓発に取り組んでいます。今回の研修会は、サークルを運営しているグループリーダーが運営方法を学習し、楽しくダンベルサークルを運営するために行われたもので、平成22年度に柴田町との委託契約事業の一環として本学で開催されました。研修は2部で構成され、第1部の「健康講話・楽しい運動」では、橋本教授による「身体のバランスを整える運動“操体法”」の講話が行われ、健康に生きるための自然法則として 呼吸、食、身

体の動かし方、精神活動、環境の5つが相互に密接に関連しているとの話しがあった後、受講生とともに身体の動きの基本である前屈・後屈・側屈・左右捻りなどを実践しました。受講生は軽い運動を意識して行うことだけでも、筋肉の緊張がほぐれる事を実感していたようです。

小池教授の「健康づくりの活動に役立つレクリエーション」指導では約45分間にわたって身体を動かし、終始笑顔が溢れていました。このような講座が本学で開催されることは、地域の方に仙台大学の取組みを知っていただくためにも大変素晴らしい機会であると再認識しました。

第2部では柴田町介護予防普及サポーターが講師となり、創作ダンベル体操をリズムにのせて身体を動かし、研修は終了しました。

## 仙台大学 管理栄養士国家試験 「第2回受験者激励会」を開催



< 情報提供：仙台大学管理栄養士国家試験「合格修練会」 >

11月21日（日）国家試験に臨む卒業生が母校・仙台大学に集い「受験者激励会」を開催しました。

朴澤学長、藤井久雄運動栄養学科長をはじめ関係教職員も激励に駆けつけ、OB合格者である清野隼さん（2期生）、高野絵里さん（2期生）、奥友薫さん（3期生）による心のこもった体験談が披露され、参加者たちは真剣に聞き入っていました。また、東京アカデミー小田嶋講師による特別講義では、合格に直結する具体的なポイントが示されました。懇親会も行なわれ、参加者たちは仙台大卒の誇りと使命感を新たに燃やし、皆が意気軒昂にその場をあとにしました。

## 韓国女子柔道ジュニアチームが本学で強化合宿



韓国女子柔道ジュニアチームが強化合宿のため、11月6 - 11日の日程で本学を訪れました。来訪したのは、将来のオリンピック候補選手15名（15～16才）と指導者3名で、昨年まで本学の女子柔道コーチをしていた李馥熙（イ・ボクヒ）氏の姿もありました。今回の本学での強化合宿を開催するに至ったのも、李氏を外国人コーチとして招聘していたことで本学との交流があったからのもので、李劉徳監督は本学学生との合同練習を経て「日本の自主的に練習に取り組む、姿勢を学ばせることができた」と話されており、日韓両国の若い世代のスポーツによる交流がなされ、学生たちにとっても有意義な1週間となりました。

## 上海体育学院の戴理事長が来訪



11月10日（水）に国際交流協定締結先である上海体育学院の戴理事長をはじめとする5名が本学へ来訪しました。

今回の訪問は、理事長に就任した戴 健氏の理事長就任のご挨拶が主目的でした。飛行機整備トラブルで仙台空港到着が大幅に遅れてしまい、残念ながら国際交流会議等は中止になってしまったものの、歓迎懇談会は盛会裏に終えることができました。

今後も益々の交流発展が期待されます。

## みやぎ大菊花展柴田大会



柴田町の秋を彩る「みやぎ大菊花展柴田大会」が10月20日 - 11月10日の期間、船岡城址公園で開催され、県内の菊愛好家が手塩にかけた菊2300鉢が出展されました。

本学では毎年この大会に協力しており、昨年からは仙台大学学長賞が設けられました。11月26日に行われた表彰式では学長代理として、事業戦略室の小室室長が出席し、庄司平氏の「大菊国家秋舞台」の作品に仙台大学学長賞を授与しました。



## 田中美衣選手と南條充寿講師が文部科学省の「国際競技大会優秀者等表彰」を受賞

11月1日(月)に文部科学省の「スポーツ功労者顕彰及び国際競技大会優秀者表彰式」が東京都で行われ、ユニバーシアード競技大会での女子団体戦優勝や世界選手権で第2位となった田中美衣選手(ぎふ柔道クラブ24所属 / 平成21年度卒)が受賞しました。また、南條充寿講師(日本柔道連盟女子シニア強化コーチ)も田中選手を育てた優れた指導者として、受賞されました。

写真：昨年12月の東アジア競技大会



## OBの植松鉦治選手(KONAMI体操競技部 所属)が来学



過日行われた世界体操競技選手権大会で日本チームの銀メダル獲得に大きく貢献したOBの植松鉦治選手(平成20年度卒 / KONAMI所属)が10月30日(土)に来学し、朴澤学長と恩師の小西准教授に大会の報告を行いました。来年は世界選手権が東京で開催され、2012年にはロンドンオリンピックが控えています。植松選手には本学体操競技部で初のオリンピック誕生と、その大舞台での活躍に大きな期待が寄せられています。

今回、植松選手より、世界選手権で使用したユニフォームと直筆サインが大学に寄贈されました。ユニフォームは学長室に、直筆サインはKMCHに展示してありますので、是非ご覧下さい。



## 快挙 OBの大元英照選手がアジア大会で2大会連続の金メダル獲得

本学OBの大元英照選手(おおもと ひでき / アイリスオーヤマ)が「第16回アジア大会 ポート競技：軽量級男子舵手なしフォア」の決勝レースが11月18日(木)に行われ、見事、金メダルを勝ち取りました。大元選手は、前回の「第15回アジア大会 ポート競技：軽量級男子ダブルスカル」に引き続き、2大会連続の金メダル獲得です。

軽量級男子舵手なしフォアのクルーは以下の通り

- 片岡 勇 選手(明治安田生命)
- 佐藤芳則選手(明治安田生命)
- 須田貴浩選手(アイリスオーヤマ)
- 大元英照選手(アイリスオーヤマ / 仙台大学平成18年度卒)



## 第15回 新体操演技発表会



11月28日（日）に第15回新体操演技発表会が開催され、278名の来場がありました。昨年までの発表会は、日頃の成果を音楽にあわせて踊ることを保護者に観て頂く事がメインでした。しかし、第15回の節目となった今回は、全ての演目をストーリー仕立てにしたことで、より表現力のある演技で、観客が今まで以上に楽しめる内容となり、来場者からも「すべての作品にストーリーがあり、これまでの発表会にも増して素晴らしかった」との声があがっていました。また、「挑戦」をメインテーマとして、各々ができることよりも少し高いレベルの演技に構成したことで、演技者の達成感も増したそうです。

このイベントには撮影や進行役としてスポーツ情報マスメディア学科の学生がサポートに入り、イベントを裏方として支えました。また、本学OBが代表を務め、今年 of 全日本クラブ団体選手権で初優勝したインタークオレスや、聖和学園高校の男女新体操部も賛助出演し、会場に華をそえて頂きました。全ての演目を手がけた丹羽講師は「基礎能力を更に強化し、世界へ繋がるように飛躍したい」と話していました。